

平成27年度授業改善推進プラン

清瀬市立清明小学校第4学年

	学力調査から見た課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きの力が不足しており、文章の読解にも影響している。 語彙力も不足しており、文章をイメージとして捉えることができていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 習った漢字をノートや作文・日記などにおいて、きちんと使っていくように指導する。 国語の時間に意味調べを実施するのはもとより生活の中で意味の分からない言葉を自ら調べていけるようにする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 校内の消防設備調べや消防署見学に行き意欲的に活動し、熱心に話を聞く様子も見られる。自ら必要な資料を見つけ出し、その中から必要な情報を取捨選択するといった力はまだ不足している。 都道府県名の定着には差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や写真、グラフなどの情報から何がわかるのかきちんと捉えさせ、調べ学習などでどんな情報が必要なのか考える練習をしていく。 社会の時間だけでなく、生活する中で地名や県名など出た場合、その都度地図で確認していく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算スピードや正確性の差が大きい。 手先の不器用さなどから、コンパスや分度器の扱い方を苦手とする児童が見られる。 基本的なことは理解できていても、応用・活用的な問題にあてはめて考えることを苦手としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 100マス計算などの計算練習に取り組み、児童の計算のスピードや正確性を向上させる。 授業に限らず、模様や作図する際に積極的にコンパスや分度器などを使うことで、用具に慣れる機会を増やしていく。 まず、問題をきちんと読み、題意を的確にとらえさせる。そのうえで、図などを書いてイメージをつかめるようなトレーニングをしていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察などに興味をもって意欲的に活動する児童が多く見られる。そのぶん興味が強すぎて自分勝手に活動してしまうこともある。 用語の定着や漢字できちんと用語を書くことが苦手な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後決められたことを守って実験をしないと危険なことも多くなってくるため、興味や意欲は大切にしつつも、きちんと指示を聞いて活動に取り組めるように指示をしていく。 用語の小テストなど実施して、未習の漢字も理科で学習した分については書くことができるようにしていく。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うことに課題がみられる。 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏することに課題がみられる。 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくることに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2部合唱を多く取り入れ、聴き合う場の設定や、声を合わせやすい発声になるように工夫する。 楽器の奏法を学習し、曲想に合わせた表現の工夫をする学習を多く取り入れる。 イメージをふくらましやすいテーマや楽器を設定し、音楽づくりをする学習を多く取り入れる。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 題材に興味を持ち、楽しみながらつくることができる。 既習事項を生かして自分で思いつく、あるいは新しい表現方法にチャレンジしようという意欲がもっとほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が達成感を感じ、次への意欲につながるような課題を設定する。 自己肯定感を高めるよう声掛けを行う。 スモールステップで技能幅を広げ、それが表現への意欲につなげる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 整列や集合、途中で教員からの指示などを聞く態勢をつくるのに時間がかかってしまうことが多く見られる。 チームで活動する種目において、運動能力の差から苦手な児童が遠慮してしまう傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集合や整列も体育の活動の一つであることを理解させ、すばやく行動できるよう繰り返し行っていく。 チームでの練習時間を確保し、コツややり方をアドバイスし合うことで、チーム全体の力を向上していけるようにする。 	